

## 令和4年度 児童・保護者アンケートの結果について（ご報告）

早春の候、保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。今年度も、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、2月に実施した児童対象の「学校生活についてのアンケート」と、保護者の方対象の「学校教育についてのアンケート」の集計結果がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

## 1【児童：学校生活についてのアンケート】

## (1) 集計結果

◎とてもおもう

○おもう

△あまりおもわない

×おもわない

ばんごう 番号	がっこうせいかつ 学校生活をふりかえって	◎+○ (%で表示)
1	学校へ来るのが楽しい。	90
2	先生や友だちに元気よくあいさつができています。	83
3	忘れ物をしないように、持ち物の用意ができています。	88
4	身の回りの整理・整とんができています。	78
5	授業はわかりやすく、楽しい。	93
6	授業でわからないとき、先生に質問することができる。	71
7	授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている。	92
8	授業で、自分の考えを発表したり友だちと話し合ったりしている。	84
9	授業中、姿勢正しく学習している。	78
10	進んで読書をしている。	69
11	しなければいけない仕事をきちんとしている。(そうじ・当番・係など)	98
12	早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活をおくっている。	84
13	休み時間には外で遊ぶなど、自分から進んで運動をしている。	87
14	安全に気をつけて登下校している。	97
15	宿題を忘れずにしてきている。	97
16	地震や火事のと看、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいか分かる。	98
17	学校のきまりや約束を守って行動している。	96
18	友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている。	96
19	友だちのまちがった考えや行動に対して、はっきりと自分の思いを伝えられている。	84
20	相手をきずつけないように、言葉づかいに気をつけている。	91
21	新型コロナウイルス感染症を予防するための行動を実践している。	96

※集計表右側の数値は、◎「とても思う」○「思う」を回答した児童の割合の合計です。

○ 全体的に、昨年度（令和3年度）の結果と大きな変化は見られませんが、次の項目については、大きく向上しました。

- 8 「授業で、自分の考えを发表或したり友だちと話し合ったりしている」・・・84%（+18）
- 3 「忘れ物をしないように、持ち物の用意ができています」・・・88%（+4）
- 5 「授業はわかりやすく、楽しい」・・・93%（+4）
- 12 「早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活をおくっている」・・・84%（+4）

○ 95%が「できている」と回答している項目は、次の通りです。

- 11 「しなければいけない仕事をきちんとしている」
- 14 「安全に気をつけて登下校している」
- 15 「宿題を忘れずにしてきている」
- 16 「地震や火事するとき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいか分かる」
- 17 「学校のきまりや約束を守って行動している」
- 18 「友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている」
- 21 「新型コロナウイルス感染症を予防するための行動を実践している」

● 昨年度と比較し、「できている」と回答した児童の割合が減少したのは、次の項目です。

- 1 「学校へ来るのが楽しい」・・・90%（-5）
- 4 「身の回りの整理・整頓ができています」・・・78%（-5）

● 70%前後のやや低い結果だったのは、次の項目です。

- 6 「授業でわからないとき、先生に質問することができる」
- 10 「進んで読書をしている」

## （2） 結果からの考察

- 授業に対する関心・意欲が向上し、多くの児童が楽しく積極的に学習に取り組んでいることが分かります。特に、授業の中で自分の意見を发表或ししたり、友だちと話し合っただけで深めたりする態度や力が伸びています。
- 自分のすべき課題や仕事・役割に、多くの児童が誠実に取り組んでいることが分かります。
- 交通安全や生活安全についての意識が高く、きまりや約束を守り、落ち着いて生活できています。
- ほとんどの児童が、いじめや仲間はずしをせず、だれとでも協力してなかよく活動できています。しかし、友だちのまちがった言動に対して、気付いていながらもはっきりと意見するのをためらう傾向があります。少人数の人間関係の影響もあると考えますが、正義を通す勇気と実行意欲がやや弱い実態があります。
- 授業では、よく分かって楽しいときは積極的にがんばれますが、難しいことや分からないことになると、ねばり強く取り組めない傾向があります。失敗することを恥ずかしいと感じている児童もいます。教師は、児童の学習の状況をしっかり見取り、適切な指導を行うとともに、ポジティブな行動支援や声かけを通して、できる喜びを体験させ、勇気づけを行います。また、分からないところをそのままにせず、積極的に質問できる雰囲気大切にします。そして、学校・学級の中で、一人一人の個性が受容され、安心して自分の意見や思いが伝えられる仲間づくりを進めてまいります。
- 全国的にも活字離れが課題となっている読書については、裏面の保護者アンケートの結果でも問題提起をいただきました。コロナ禍による制限が緩和される次年度5月以降、「読み語り」ボランティアの活動も再開し、子どもたちに読書の楽しさを体験する場を増やします。
- 「学校へ来るのが楽しい」と答える児童が90%と、目標とする100%に届きませんでした。コロナ禍の中で、全国では不登校児童が増加傾向にあります。学習や生活、友だちや周囲の人との人間関係、自分自身のこと、表現する機会のなかった思いを抱えている児童もいると思います。児童一人一人の思いにしっかりと耳を傾けて適切な対応を考え、学校が安心できる居場所となるよう、全教職員で引き続き取り組んでまいります。